

# クレジットカード情報保持で PCI DSS 対策。 多要素認証導入でセキュリティ強化。

～多要素認証システムの導入をスピード実現。提案開始から5ヶ月で導入へ～

郵船トラベル株式会社は、法人向け旅行業務および、個人向け豪華クルーズ客船などの旅行業務取り扱い企業です。2018年3月にクレジットカード情報の非保持化もしくは PCI DSS 準拠の対策案提出が迫る中、同社は顧客の大半が企業であることから、クレジットカード情報を保持し PCI DSS 準拠をすることを決定し、2018年2月に多要素認証システムの選定を開始、5月に DDS の多要素認証基盤「EVE MA」と出会い、9月には導入をされました。驚異的なスピードで PCI DSS 対策を実施されたポイントと、今後の展開についてお話を伺いました。



## ■ 急務であった PCI DSS 準拠。 イベントでのデモ見学が導入のきっかけに

「EVE MA」との出会いは、セキュリティ関連のイベントで見たデモでした。元々は PCI DSS 対応の一部でログを集中管理するためのソリューション探しで参加したのですが、それとは別に PCI DSS 準拠のための多要素認証対応も必要だったため、会場内を見学していたときに見つけたのが「EVE MA」でした。実は IATA (International Air Transport Association : 国際航空運送協会) から PCI DSS 準拠必須との通達を受け、準拠はしたものの、社内目標としてセキュリティ強化を 2018 年 12 月期限と設定していたため、多要素認証は「EVE MA」で対応しようと決めました。

裏面もご覧ください ➡

## ■ 仮想化環境での生体認証を含む多要素認証が必須条件

多要素認証導入にあたって、VDI 環境での利用ができることも重視したポイントです。業務上海外にいるお客様からのお問合せ対応は、時差もあるため 24 時間体制でサポートを実施しており、自宅からの対応も行っています。必然的にノート PC を社外からリモートで接続・利用することになるため、VDI 上のデスクトップアプリケーションのログインを多要素認証で行うことが必須条件でした。従来、社外持ち出し用には iPad を利用していましたが、PCI DSS 準拠のため、「EVE MA」の多要素認証が可能なノート PC に変更しました。PC1 台につき指紋認証とカード認証用のデバイスを 1 セット用意し、社内ではデスクトップ PC、社外ではノート PC と使い分けています。

## ■ 標準で 10 種類の業務アプリケーションをパスワードレスに

社員が通常業務で使用するアプリケーションは、航空会社のシステムを始め、Office 365 など 1 人平均 10 種類ほどになります。それぞれに ID、パスワードの入力が必要でしたが、現在は利便性の向上のため「EVE MA」の ID マネージャーに標準的な業務アプリケーションを登録し、シングルサインオン機能を利用しています。導入に当たっては、社内向けのマニュアルを作成し掲示板で告知、指紋登録はこのマニュアルを参考に社員各自が実施する方法を採用しました。

## ■ 管理者負担は軽減。社員からは逆提案急増 今後はより利便性を追及した運用を検討

本格導入からまだ 1 ヶ月程度ですが、時折あった社員がパスワード連絡を忘れたためにメンテナンスを延期するというような事態も代理認証利用で回避することができ、メンテナンス時間の短縮ができており、管理者負担は削減されていると感じています。また、社員からも、PC 内蔵の指紋認証機器が使えないかといった、認証に関する積極的な意見が寄せられるようになりました。導入検討時には想定していなかったのですが、指紋認証を利用するシーンは今後拡大していくと考えています。

## ■ 多要素認証で PCI DSS、改正個人情報保護法、そして GDPR 対策

多要素認証導入のきっかけは PCI DSS でしたが、クレジットカード情報も個人情報であるため、「EVE MA」による多要素認証は、改正個人情報保護法への対策、プライバシーマークへの対策、そして、EU の個人情報保護法である GDPR（EU 一般データ保護規則）への対策についても、今後対策を求められた場合の予防になるのではないかと考えています。



※記載の内容は 2018 年 11 月のものです。記載内容は、予告なく変更する場合があります。記載の社名、および製品名は、各社の商標または登録商標です。

202008\_D200940\_02